



2023年5月11日

各位

会社名 日本 KFC ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 判治 孝之
(コード番号 9873 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役専務執行役員 蜂谷 由文
TEL.(045)-307-0605

2023年3月期通期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2022年11月9日に公表しました2023年3月期通期業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想と実績値との差異について (2022年4月1日～2023年3月31日)

通期連結業績予想と実績値との差異

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回修正予想(A)	97,000	2,200	2,600	1,600	71円62銭
今回実績値(B)	99,926	3,622	4,344	2,489	111円41銭
増減額 (B-A)	2,926	1,422	1,744	889	
増減率 (%)	3.0	64.6	67.1	55.6	
(ご参考) 前期実績 (2022年3月期)	97,520	6,106	6,939	4,557	203円94銭

2. 差異の理由

当社グループにおいては、中期経営計画の2年目にあたり、積極的な新規出店、ブランド力の維持・向上を目的とした既存店舗の改装促進、お客さまの利便性向上等を目的としたDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進を重要施策と位置付けております。

当連結会計年度においては、前連結会計年度に続き新型コロナウイルス感染者数の再拡大、加えて物価高騰に伴う消費者マインドの低下により外食機会の減少等の影響が生じました。

この様な状況の中、主力のケンタッキーフライドチキン（KFC）においては、上半期までは既存店売上高が前年を下回る状況で推移しておりましたが、下半期以降、日常利用のさらなる推進、「バーガーリニューアル」の実施等による新商品の発売、お得感のあるセットメニューの発売等により、お客さまの購買体験価値の向上に努めた結果、既存店売上高が上昇に転じ、通期においても前年同期比 100.5%と好調に推移いたしました。これに伴い、原材料価格や資源価格等コスト上昇の影響を受けつつも、売上高及び営業利益につきましては、前回修正予想を上回る実績値となりました。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記の売上高及び営業利益の増加要因に加え、一部の持分法適用関連会社において、外国人観光客の受入再開、行動制限の緩和等により業績回復が顕著となったことに伴い、持分法による投資利益を計上したことから、前回修正予想を上回る実績値となりました。

以 上